

中等教育における外部機関との連携の可能性

—美術科において—

筑波大学附属駒場中・高等学校 技芸科

土井 宏之・植村 徹・町田 健児

渡邊 隆昌

中等教育における外部機関との連携の可能性

—美術科において—

筑波大学附属駒場中・高等学校 技芸科

土井 宏之・植村 徹・町田 健児
渡邊 隆昌

要約

本校美術科は、高等学校では数年前まで少人数選択型総合学習の高校2年生対象ゼミナール美術講座を10数年にわたり開講し、中学校では同じく少人数選択型総合学習の中学3年生対象テーマ学習（国語・美術）合科型講座を現在に至るまでやはり10数年にわたり開講し、少人数制の授業に効果的なカリキュラムの作成、授業方法等の研究を継続し、実践してきた。各々の講座では、通常の授業に収まりきれないやや専門的な内容で展開するために、外部の美術館等の協力を得てより効果的な学習とすることを目指してきた。本稿では、これまでの連携の蓄積とそこから見えてきた成果と課題を報告する。

キーワード：美術館・博物館連携、スクールプログラム

1 はじめに

近年「美術館・博物館」が企画するスクールプログラムが充実しつつあり、中等教育の美術教員にとって、専門家による制作体験や鑑賞の選択肢が広がり、質的に高い教育効果が期待される。しかし一方、学校現場の時間割などの制約から、教員の意図に反し、結果的に「おまかせ」になってしまうこともありうる。効果的、かつ現実に可能な美術館・博物館との連携について、その可能性と課題を探りたいと考えている。

2 「高校2年生ゼミナール」における実践

2.1 「美術科ゼミナール」のめざしたもの

現在本校では、高校の教育課程において「課題研究」が設定されているが、かつて総合学習であった「高2ゼミナール」がその学習内容においてほぼ引き継がれていると考える。生徒の希望選択による、少人数の学習であり、本来の「美術」の授業とは異なる。ゼミ全体を通じ「バーチャル美術館を創る」という制作活動を課題として行いながら、そのねらいは、「芸術(美術)」を学問的に探求するための端緒をつかむこと、また、美術作品そのものや美術を取り巻く様々な事象を、社会との関わりにおいて考える力を身につけることを目

指す。」こととし、ゼミ各回においては、制作のための基礎知識、考え方を学ぶ内容を展開した。

高等学校の「美術」は、当然のことであるが、美術の専門家を育てることを目標としているわけではない。しかし、生徒の将来進む方向の選択肢を広げる努力は積極的に行っても良いのではないだろうか。生徒にとって、「美術」と結びついた将来の道という、制作する立場はすぐに想定できるが、美術作品や造形活動に対し、鑑賞者あるいは支援者の立場から関わる立場もあるのだ、ということを知らせることも重要である。また、生徒が実際に研究者やアートジャーナリストなどの道に進まなかったとしても、美術作品そのものや美術を取り巻く環境に対し、考え、判断する力を身につけ、何らかの形で社会的な側面から美術と関わる姿勢を育むことができればよいと考えた。中等教育段階における「芸術」の影響力は、高等教育におけるそれよりも得てして大きい場合がある。その意味でも、少なくとも、単に消費者の立場でしか美術と関わるることができない人間に育てたくはないと思う。以上の狙いを実践するために、外部の美術館等の協力を得て学習を展開することは非常に有効であると考え実践してきた。

2.2 「美術科ゼミナール」年間学習計画 2013 年度

第1回 6/15 3,4時間目「講義」

テーマ「バーチャル美術館」制作の進め方

テーマ「西洋美術史概説」

第2回 6/29 3,4時間目「講義」

テーマ「現代芸術における主題とは」

テーマ「美術館のこれから・使命と今後のあり方」

全国の公立美術館の現状について、特にバブル期の箱モノ行政による美術館を含めた文化施設の乱立と、行財政改革による文化関係予算の縮小、民間移行も含めた経済的自立への模索などの現状についての概説。

(紹介事例、資料)

京都国立博物館「スター・ウォーズ展」・東京都現代美術館「ハウルの動く城展」・金沢21世紀美術館の取り組みなど

第3回 7/10 午後2時～4時「見学」

東京都現代美術館の常設展見学、および学芸員との質疑応答、協議、

[夏季休業中に「アトライター大賞」の応募原稿を書く]

第4回 9/21 1, 2時間目「講義」

テーマ「美術・文化と宗教」「西洋美術史・キリスト教と美術・西洋美術に見る人体表現」

第5回 10/05 3, 4時間目「講義」

テーマ「日本・東洋絵画」「仏教と仏像・密教の世界観」

第6回 11/16 2, 3, 4時間目「講義」

テーマ「美術解剖学入門」

テーマ「卒業研究に向けて」

第7回 1/18

テーマ「バーチャル美術館最終発表」

第8回 1/25 午後1時～3時「講演」

テーマ「日本・東洋美術史・絵巻をジェンダー的視点から見る」 恵泉女子大学・稲本万里子先生

2.3 美術館訪問時質問紙

上記第3回の東京都現代美術館を訪問しての講座テーマ「現代美術の現況・公立美術館のこれから・その使命と今後のあり方」実施に当たって、生徒たちに質問項目を考えさせ、それをまとめたものを事前に美術館に送った。以下がその内容である。

教育普及係 ○○ 様

美術館訪問時質問票

以下、当日うかがいたい内容の骨子です。可能ならば、

常設展を鑑賞しながらのレクチャーとは別に、別室でお話をうかがえるとありがたいのですが。

問1 MOTアニュアルについて

・1998年度以降続いているこの企画の共通テーマとは何か？

・現代美術館におけるこの企画の位置づけはどのようなものか？

問2 トーキョーワンダーウォールについて

・若手美術作家を育てるといった目的なのか？

・美術館が主体となって推進しているのか？

・トーキョーワンダーサイトとの関係は？

問3 2005年度の「ハウルの動く城―大サーカス展」あたりから続く、スタジオジブリ系、ディズニー系の企画について

・どのような層をターゲットとした企画なのか？

・特に初めの数年の企画は、ある意味美術を超越して、なにかテーマパークの催し物のような側面もあったように思われるのだが、これを通してのメッセージとは何なのか？新しい美術のあり方を提案するという意味合いをはらんでいるのか？

問4 企画の推移について

・美術、特に現代美術にあまり興味のない人にも見に来てもらえるような企画の工夫など、具体的にどのようなものがあるのか？

問5 教育プログラム

・大人のためのプログラムと子供のためのプログラムがあるが、それぞれどのような目的の企画なのか？

・具体的な成果は表れているのか？

・美術になじみの薄い「シロウト」向けの企画と、現代美術好きの「クロウト」向けの企画を、どのようにバランスを取って運営しているのか？

問6 公益財団法人東京都歴史文化財団が運営主体となっているが

・芸術文化の収集、研究、普及ということと、経営的な収支の安定ということについてどのようなスタンスで臨んでいるのか？

問7 まとめとして

・美術館には様々な使命があると思うが、企画ごとにその果たしている役割が異なっているようにも思える。その中で美術館全体として発信しようとしているものはあるのか？あるならば何なのか？

当時は、東京都の知事が変わって数年を経た時期であり、文化行政に対する姿勢も首長の考え方によって左右され、特に財政面においてそのことが顕著に表れ

ていた。質問紙の間3、問6はそのあたりを現場の学芸員の方がどのように捉え、どういう方向に進もうとしているのか、忌憚のない話をしてもらうために、生徒にこのような質問項目を立てさせるべく、第2回の事前学習において様々な情報提供と考える場を設定したのである。

「高2ゼミナール」においては、東京都現代美術館に限らず、年によって川崎市民ミュージアムや ICC (NTT インターコミュニティー・センター) なども訪問し、東京都現代美術館訪問時と同様に事前に質問紙を送り、学芸員の方との協議の場を設定してもらった。以下に参考までにそのときの質問紙も掲載する。

川崎市民ミュージアム ○○ 様

お願いしたいレクチャーの内容についてまとめさせていただきましたので、お目通しください。

1. ミュージアムの設立の趣旨と現状、他館との差異化
2. 行政側のミュージアムに対する考え方の変遷と現状
3. 2と関わって、予算、経営的な側面の課題、努力
4. 展覧会企画と、作品収蔵、市民サービスのバランス、考え方
5. 指定管理者制度との関係、学芸員の身分と仕事内容の変化

この度は突然のお願いになりましたが、前任の○○氏には、2回(2年間)、同様のレクチャーをしていただきました。その前10余年にわたり私が、毎年夏の「夏休み子供絵画・版画教室」の講師をしていた関係で現状にいたっております。「夏休み子供絵画・版画教室」の講師を3年前にやめたのが、まさに上記の2、3によると聞いています。もちろん、レクチャーの依頼内容がそこにこだわってということでは決してありませんので、ご承知おきください。

I C C 運営企画担当 ○○ 様

○月○日の見学、よろしくお願ひ致します。高校2年生○名を引率して参ります。以下、当日お話をうかがいたい内容の骨子です。

1. NTT東日本の文化施設としてのI C C設立の趣旨(公的側面と企業としての側面)
2. 運営にあたってのポリシー、コンセプト
3. 「オープンスペース○○○○」企画のコンセプト(いくつかの作品について具体的な話があるとありがたい)
4. これまでのメディアアートの流れと、最近の動向(ハード、ソフトの発達もふまえて)
5. 現代美術やサブカルチャーの枠組みにおける、メ

ディアアートの位置づけ

川崎市民ミュージアムでの質問紙は、本稿の筆者がまさに経験したことを踏まえて、行政と公立美術館との関係の現実を生徒に理解し考えて欲しいと思ったものである。NTT インターコミュニティー・センターの訪問は、半官半公立の美術館のあり方について考えてもらう意図があった。

3 「中学3年生テーマ学習」における実践

3.1 「中学3年生テーマ学習」の学習内容

中学3年生対象の総合学習のうち少人数選択制による「テーマ学習」では、美術科は、10年以上にわたり国語と共同して、1講座「言葉と映像の世界」を担当している。この講座は、年間およそ6日程度、のべ時間数実質20時間程度である。受講生は、3名程度から、20名程度と年度により幅がある。生徒は、個人ないしはグループで、言葉(詩・散文)と映像(静止画)を用いて、作品を造り、最終的には、詩(散文)の朗読とプロジェクタによる映像の組み合わせによる作品発表(演示)を行う。映像は、基本的に静止画像の集積で、プレゼンテーションツールとしてPower Point等を用いることになる。

3.2 「中学3年生テーマ学習」年間指導計画 2021年度

第1回 6/19 2h

講座の学習、活動内容の理解

生徒過去作品鑑賞

練習用課題・素材(詩)の理解

クラスルーム・プレゼンテーションツール等の理解

「写真の今」

夏休み<練習作品の制作>

第2回 9/18 2h

練習作品発表、相互鑑賞評価

第3回 10/2 3h

校内撮影、発表会

第4回 11/6 3h

関連作品鑑賞(詩のボクシング、アラーキービデオ)

冬休み<本作品のための撮影等>

第5回<校外活動> 1/22

現像体験 (東京都写真美術館)

第6回 2/ 4h

作品発表(演示)

画像、詩テキストデータ提出

3.3 美術館訪問ワークショップ

中学校の段階における美術館訪問は、学校の場では困難な制作及び鑑賞においてより専門的な内容を体験させることを目指している。

東京都写真美術館を訪問し写真表現について学習するプログラムは、現在に至るまで10年以上にわたり活用してきている。当初のプログラムはやや自由度の低い、美術館が固定した形で提供する内容であったが、近年は事前の打ち合わせにより、学校側と美術館側の各々の意図がすりあわせできるようになり、より効果的な学習ができています。

以下は保護者向け案内である。

中学3年生保護者各位 2021年12月

筑波大学附属駒場中学校長 北村 豊

テーマ学習「言葉と映像の世界」での
美術館実習について（お知らせ）

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。さて、本校では中学3年生に「テーマ学習」が実施されております。そのうちの一つである「言葉と映像の世界」では、下記の要領で「テーマ学習」が設定されている日に東京都写真美術館を訪問し、写真表現について学習したいと考えております。

記

期日 : 2022年1月22日（土）
場所 : 東京都写真美術館（恵比寿ガーデンプレイス内）恵比寿駅東口徒歩7分
集合 : 美術館玄関前 9:50
解散 : 美術館玄関前 12:30（予定）
内容 : スクールプログラムによる、写真表現実習、作品鑑賞
費用 : 入館料 無料 ・ 交通費 各自実費
引率者 : 本校教員 関口・土井

当日は、「サイアノタイプ(青写真)」というものを体験実習します。準備として、以下のものを持ってくるください。 ・使用する素材（樹脂、ガラス、繊維、等々）美術館でも多少は用意してくれます。

前半は、学芸員の方による対話型の展示作品鑑賞、その後実習は1時間～1時間半程度です。

今年度のプログラム受講は本稿執筆時には実現していないが、実施要領はほぼ例年と変わらず、昨年度は、前半にアクティブ・ラーニングによる鑑賞体験、後半にフォトグラムによる現像体験を実施した。今年度は従来実施してきた暗室を使用するフォトグラムが、コ

ロナウイルス感染対策のために実施できず、太陽光利用のサイアノタイプでの実習を予定している。サイアノタイプは感光剤などの薬品も比較的入手しやすく、本校高校の40数名対象の通常美術授業でも実施している。12月16日に美術館実習の事前打ち合わせの折、サイアノタイプの特性と生徒への効果的な実習方法など有益な情報交換と専門的立場からの示唆を得ることができた。学校現場でどのような題材が展開されているのか情報を得ることは美術館側にとっても有益であろう。

事後に学習効果を検証するため、受講生徒にアンケート調査を予定しており、以下にその質問紙を挙げておきますが、結果が出て分析できるのは、本稿脱稿後となる。

-
- I 前半の館内作品鑑賞に関して
- 1 言語活動、能動的学び（アクティブラーニング）を重視した対話による作品鑑賞について
- ①個人で静かに鑑賞する方が良い
②どちらかと言えば個人で静かに鑑賞する方が良い
③どちらかと言えば個人で静かに鑑賞するより今回の形の方が良い
④個人で静かに鑑賞するより今回の形の方が良い
⑤どちらともいえない
- 2 上の質問に関して、具体的理由を書いてください（必須）
- II 後半のフォトグラム実習体験に関して
- 3 意欲的に取り組むことができましたか
- ①通常の授業以上に
②通常の授業と同程度に
③通常の授業以下
- 4 「フォトグラム」という表現方法について
- ①非常に興味深かった
②どちらかと言えば興味深かった
③どちらかと言えば興味が持てなかった
④興味が持てなかった
⑤どちらともいえない。
- 5 写真・画像を扱うことに対する興味・関心は、実習体験前と比較して変化しましたか。
- ①高まった
②あまり変わらない
③低下した
- 6 光を直接印画紙に定着させるという体験によって、スマホやデジカメを使用して写真（画像）を撮る事に対する意識に、変化がありましたか。

①変化があった

②変化はない

7 上の質問に関して、①②いずれの場合も具体的にその内容や理由を書いてください(必須)

Ⅲ 今回の美術館実習全体に関して

8 美術館での体験実習に対する興味・関心度

①通常の授業以上だった

②通常の授業と同程度だった

③通常の授業以下だった

9 今回の美術館実習は自身の制作(テーマ学習最終課題)の参考になりましたか。

①非常に参考になった

②多少参考になった

③あまり参考にはならなかった

④全く参考にはならなかった

⑤直接参考にはならなかったが、間接的には参考になった

10 美術館の講師、スタッフの方から多くのことを学ぶことができましたか。

①通常の授業以上に

②通常の授業と同程度に

③通常の授業以下

11 友人の制作や発言から多くのことを学ぶことができましたか。

①通常の授業以上に

②通常の授業と同程度に

③通常の授業以下

12 校外施設での活動について

①もっと増やして欲しい

②この程度で良い

③もっと少なくても良い

☆「テーマ学習・言葉と映像の世界」全般に関して要望があれば、書いて下さい。

対応してもらうことができ、かつ当日はその場でさらに深く協議することが可能となった。

中学3年生テーマ学習においては、長年にわたる同一美術館によるワークショップ学習の積み重ねにより、より効果的な学習ができるようになってきているということとともに、その成果を美術館側にフィードバックできているのではないかと自負している。

現在までの実践は通常の授業の中で行ったものではなく、あくまでも少人数の生徒対象の総合学習の中で行ってきたものである。今後の課題と考えるのは、これまでの蓄積を生かしていかに大人数でかつ時間割が固定されている通常の授業にこの取り組みを組み込んでゆくかと言うことであろう。本年度中3テーマ学習で予定のサイアノタイプのように個々の教員が独力で展開してきた題材も美術館を通じて学芸員や造形作家、技術員などの専門家のアドバイスを受けることにより、通常の授業においてもより効果的な学習が可能になるのは確かである。

4 本実践の成果と今後の課題

高校2年生ゼミナールにおいては、通常の「美術」の授業における制作や鑑賞活動にとどまらず、生徒たちが生きている現在において、美術という観点から彼らがどのように社会と関わるができるのか、美術館の場でそのことと直接向き合っている学芸員の方と生のやりとりをする貴重な体験ができると考えた。東京都現代美術館、川崎市民ミュージアム、NTT インターコミュニティー・センター、いずれの場合も事前に質問紙を送付することにより、学芸員の方にはっきり